

# 太陽の子

2015年 7月 No.152

夏の号

発行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(23)2620

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール [npo@taiyonoie.com](mailto:npo@taiyonoie.com)

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立市太陽の家支える会



日立市長(前)吉成氏より当法人理事長小又克也が感謝状をいただきました。障害児者とその家族を尊重し、日立市全体の福祉の向上に貢献したためとのこと、当日はたくさんの利用者さんと共に感謝状を受け取り、その様子はみんなニコニコとうれしそうにみえました。

## 日立市太陽の家四十五周年に思う

日立市太陽の家

管理者 井 関 えり子

昭和45年7月5日は太陽の家の開園記念日です。今年で45周年を迎えます。開所以来、大切にしてきた理念『ここは、書物にないものを学ぶところである。どんなに障害が重くとも、一人の人間としてその生命は尊重されなければならない。障害のある人たちが困んで幸せな社会の建設を目指す日立市民の「心の象徴」として日立市太陽の家は生まれた。この家は全ての障害児(者)を守りその行為を通して市民ひとりひとりが生命の尊さを考える場としたい。』何十年の時を経ても、色あせずに心に深く響きます。

中山達之助顧問をはじめ先人たちの活動に発し、一円玉募金を通して多くの方々の善意が集まり太陽の家が生まれました。利用者さんが家族以外の方の関わりを受け同じ障害を持つ友達と出会い、ボランティア活動に支えられより豊かになった療育、親達の交流の場でもありました。より良い関わりを求め、少しずつ形を変えながらも生き生きとした輝く命の集う場所はその当時から変わらず引き継がれています。

障害の重い方への支援が整うことにより、もっと軽い方への支援も整うと時を繋いで来られた色々な方の活動、ご支援があり日々の療育を進めることが出来ました。

太陽の家の合い言葉は、「笑顔と感謝」。調子の外れた歌や、おどけた姿に笑顔を見せてくれる利用者さん。心地良い会話や、抱きあげ、出来た喜び、心が通いあった時の笑顔は更に素敵な笑顔になります。そしてその笑顔は人を幸せにしてくれます。色々な方のご支援に、今ここに生きることに感謝。感謝する気持ちが幸せに導いてくれます。

45周年を迎えるに当たって、一円玉を手の平に思いをはせてみませんか、開園に向けての熱い思い、一歩一歩繋いできた多くの方々利用者さん達、うまれた笑顔、そして感謝。これからの一歩がもつと力強く豊かな一歩となることでしよう。

# 職員紹介

今、おもうこと



准看護師  
石川侑里子

4月からひまわり学園で働かせて頂き早2ヶ月が経ちました。この2ヶ月は毎日が新鮮で、利用者の方と過ごす時間がとても楽しく思える日々でした。しかし、私は知識も経験もないため、職員の方にアドバイスを頂きながら利用者の方と向き合っている毎日でもあります。不慣れな私を利用者の方はとても温かく迎え入れてくださったことをとても感謝しています。今後は、日立市太陽の家の生活介護にも携わらせて頂くことにもなりたいです。今以上にたくさんの方の利用者の方と関わらせて頂くため、1日でも早く看護の面で支援できるよう日々教えていただくことをしっかりと吸収し、利用者の方一人ひとりと向き合っていけるように頑張っていきたいと思えます。ここでのお会いを大切に、自分に出ることを見つけていきたいです。まだまだ不慣

れで未熟者の私ですが、今後ともご指導のほど宜しくお願いいたします。

太陽の家で



准看護師  
間野薫

私が初めて太陽の家へ実習に来た時、まだ残暑で汗をたくさんかいたのを覚えています。そして寒くなった頃、パート職員として働かせていただいた様になりました。半年たった今、利用者さんの名前を覚え、共通の話題を持てる様になり、冗談を言って笑い合える様になりました。あれ？いつもと違うかな？と気付ける事が出来る様になりました(まだ少しだけですが……)嬉しかったり、自分に腹が立って泣いてしまったり。

太陽の家に関わることになってこういう介助をしていきたい

滑川 和広



私は、太陽の家に来る前は、介護老人保健施設で高齢者の介護の仕事をしたり、発達障害を持つ子供達とサッカーをしたり、自閉症の双子の姉妹とそのお母さんとのクッキー作り等のボランティアをしてきました。今、私が感じる事は、まだまだこの社会には、障害を持つ人達への理解の無い偏見が強く根づいているという事です。私は、太陽の家で働いていて、利用者さん達は重い障害を持ついても明るく生きていくのに、自分はなんて小さな事で悩んでいるのだろうと考えさせられます。私は、利用者さん達の城である「日立市太陽の家」で自己研鑽を積み、利用者さん達が明るい太陽をいっぱいに浴びることのできる生活を送れるように精進していきたいと思えます。

# 職員リレー

自分の仕事

鈴木 雅明

現在している木学園では「ストレングス・デザイン」をキーワードに新しい自主製品作りを励んでいます。今まで利用者さんがなんとなく書いていた文字や絵が、手帳ケースやバッグのデザインに取り入れられて製品を買っていただいたお客様の手が届く。生産から販売まで自分達の目に見える形でたくさん喜びにつながっていく…….こんなに素晴らしいことはないと思えます。

作業、みがき作業、組立に至るまで全行程を利用者さんの手ですべて作製しています。まさしくオールハンドメイド！木の木目を活かした風合いは本当に味があり、ご好評をいただいております。実施に取り組み始めて早7ヶ月。この短期間のうちに利用者さんだけで全工程を担うということが、プランターをご購入いただければどれだけ特筆されるべきことかご推察いただけると思えます。

その中でもご紹介したいのは、焼板をみがく仕事です。いつも服が煤で汚れ顔も真っ黒になりながらも、毎日懸命に板をみがいている利用者さん達の姿は、自信に満ちあふれ、仕事人としての風格さえ感じられます。一緒にいい木で働く一人として、「自分の仕事」としてプランターのみがき作業に取り組むその姿は、まさしくいい木学園の緑の下の力持ちという印象です。ぜひ皆さんも木工班の木製プランターを飾ってみてはいかがでしょう？





# 日立守る会だより

日立重症心身障害児（者）を守る会

## 一年間を振り返って

日立重症心身障害児者を守る会会長 藤枝 利彰

平成二十六年度の日立守る会総会にて会長に就任して、早いもので一年が過ぎました。振り返ると皆様の期待に十分に応える活動が出来なかつた事を反省しております。前佐藤会長には二十数年、県・市・社協等への会議や書類の提出など、日立守る会の発展に努めてこられた事に対して改めて感謝致します。

去年一年、県・市・社協・県守る会等主催の各種の研修会や講演の参加は主に役員が多く、会員の方の参加が少なく思いましたので、今年はそれぞれ事情があるのかと思いますが、極力多くの方に参加して頂き、いろいろな方の話を聞き、今後の参考にして頂きたいと思えます。平成二十七年の総会も四月十一日に終了し、本年度の事業計画及び予算・役員も承認され、

今年一年役員一同頑張つていきますのでご協力のほどお願い致します。

本年度の九月九・十日に日立市太陽の家四十五周年・日立守る会五十周年記念事業で、社会参加のための助け合い、支え合い活動支援事業としてドイツ・ポーランド一泊旅行が計画されており、現在太陽の家の職員方と日程等の詳細を打合わせ中ですので皆様と楽しい旅行にしたいと考えております。先日皆様にお配りしました、日立市障害福祉計画（第四期・平成二十七年三月発行）のダイジェスト版を良く読んで頂き、訪問系、日中活動系、居守支援系、相談支援の各サービスを有効に活用して頂きたいと思えます。今後、会員皆様のご協力を頂き、子供達の幸せを願って役員一同頑張つて努めたいと思つております。

## 体力の反比例

椎名 幹子

息子の体力、気力がすごぶる良い。朝は早起きして、元気に動き廻り、夜は遅く迄騒ぎ、部屋一面に絵本やおもちゃを散らかし放題。ついでに押し入れの品物も一品残らず参加させ、親の意見、注意はどこ吹く風。そして、昼寝を充分に取り、夜の入浴の楽

## 将来に向けて

大森 孝子

今年に入り五年ぶりに愛正園を利用しましたが、子供の事を知っている職員の方が少なくなっているのが実状です。今は少しでも子供の日常の様子を理解してもらい、子供自身も、早く愛正園の職員にも慣れてもらいたいと毎月利用する事にしました。

親も年を重ね体調を崩す事があり、病院への通院機会が増えていく中、将来を考える事が多くなってきました。我が子も太陽の家を利用し十四年余りになりました。生活介護、居宅サービス、グルー

しみを夢見ているような毎日である。

体重、腕力も増え、体格も大きくなり絶好調ですが、両親の高齢化により体力が付いていけず、気力のみで対応している状態です。

精神的には、未だ未だ余裕と思つていましたが、体力

プホーム、更に愛正園を利用したくさんの人達との関わりを大切に、親子共々色々な経験を重ねながら前向きにがんばり、たくさんの思い出を作つていきたいと思つています。将来の事はまだ先の事とは思つていましたが、早くか

## 天使の笑顔

作・マーヤ



どんな高額な注射や薬よりも、やさしくてほんわかで、いつの間にか心が癒されてい

の老化の進み方が思いの外早く、戸惑つています。

息子の自宅での一番の楽しみは「入浴」なので、これを外す事は考えられません。

現在は、太陽の家への送迎時に、自宅から車椅子への移動を職員にお願いいたしました。が、遠くない将来の事も考えないと!!

叶う事ならば、「神よ、我ら夫婦に、体力を与えたまえ」

ら考えておく事が大事ではないかと思えます。これからも親子で色々な事に対応出来るよう元気に過ごしていきたいと思つています。



園外活動で県植物園に行ってきました。天候にも恵まれ、たくさんの植物とふれあえた一日でした。(太陽の家)



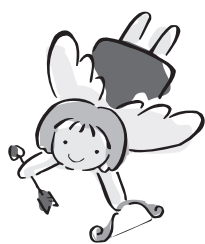
小グループ活動で海浜公園に行ってきました。天気にも恵まれ「みはらしの丘」全体に広がるキレイなネモフィラを見ることができました。(ひまわり学園)



誕生日会を行いました。満面の笑顔の理由は温かなメッセージをもらったから！この一年もステキな一年になりますように。(太陽の家)



一日のはじまりはラジオ体操から、体を動かし胸いっぱい空気を吸い込んだら作業開始の準備OK！(しいの木学園)



（前頁からの「天使の笑顔」で誰かの心を癒し、時には力強く、そして時にはやさしく鈴を鳴らし、誰かを励ましていることでしょう。

僕は、時々思います。僕には何ができるのだろう。といまの僕にはまだ見つかっていません。でも、焦らず自分のできる事を見つけたと思います。形は違ってても、いつか誰かの心を癒してあげられるようになりたいと思います。もし、自分を見失ってしまえば、心折れそうになった時は、自分を責めたり他人を恨んだりする前に、あなたも「天使の笑顔」という処方箋はいかがですか。

やさしい鈴の音が聞えませんか……

あなたの近くにもきっと「天使の笑顔」が……ほらすぐそこに。

### お知らせ

◎平成二十七年年度  
日立太陽の家利用者数

百二十四名  
男性七十三名  
女性五十一名

〒ご寄付ありがとうございました

○次の方から寄付を頂きました(敬称略) 三月～五月  
親切会関東支部長高田佳昭  
日立市太陽の家ボランティアグループ 善和会 鈴木貫一  
佐藤芳昭 日立市太陽の家支える会

○次の方から物品の寄贈がありました(敬称略)

三月～五月  
椎名将光 小林豊 村田理恵  
松山弘子

### 編集後記

開園四十五周年を迎えた日立市太陽の家、これからも感謝と笑顔を忘れずに歩んでいきたいと思えます。(K記)

